ほんごう

札幌市立本郷小学校
学校だより
令和８年６月３０日
No. ４

保健室からみる子どもたち

養護教諭　山本　朝美

４月から行ってきた健康診断は、６月１８日をもって無事に終了しました。毎年度、事前にご記入いただく書類も多い中、保護者の皆様にはご理解とご協力をいただき、ありがとうございます。

初めての検査にドキドキしている１年生、去年と比べて成長した自分に喜ぶ2年生から6年生まで、子どもたちはさまざまな表情を見せてくれました。身長が伸びたことを嬉しそうに友達と話す姿や、静かに順番を待ちながら緊張している様子など、それぞれの成長を感じる場面がたくさんありました。健康診断の結果、受診をおすすめするお知らせを渡したお子さんもいますが、お知らせがなくても、普段の様子から気になることがありましたら、ぜひ夏休みを利用して受診をご検討ください。また、子どもたちは、学校と家庭それぞれで違う表情を見せていることもあります。気になることがありましたら、どんな小さなことでもお気軽にご相談ください。

さて、保護者の皆様は「保健室」にどのようなイメージをおもちでしょうか。けがの手当てをしたり、具合の悪いときに休んだりする場所という印象が強いかもしれません。実は保健室には、それ以外にも子どもたち一人ひとりの思いや気持ちが集まってきます。「友達とけんかをして気持ちを落ち着かせたい」「授業で疲れて少し休みたい」「体育でうまくできなくて悔しかった」など、来室する理由はさまざまです。たくさん話してくれる子もいれば、そっとしてほしそうにしている子、涙を流しながら来る子もいます。時には、「今日こんなことがあったよ」と嬉しそうに話をしに来る子もいます。短い時間のやりとりではありますが、子どもたちの何気ない言葉から、その日の頑張りや成長を感じることがたくさんあります。

保健室では、「少し話を聞いてもらえたことで安心した」「少し休んだら気持ちを切り替えられた」と、表情がやわらいで教室へ戻っていく姿をよく見かけます。子どもたちは毎日の学校生活の中で、勉強や友達関係など、さまざまなことを感じながら過ごしています。大人と同じように頑張っているからこそ、疲れたり気持ちがいっぱいになったりすることもあります。そうした多くの出来事や感情を経験しながら、少しずつ成長していくのだと感じます。

私の一番の願いは、子どもたちが心も体も元気に過ごせることです。保健室が子どもたちにとって、安心してひと休みできる場所の一つであり続けられるよう、これからも日々子どもたちと関わっていきます。そして、子どもたちの小さな変化や頑張りを、これからも保護者の皆様と一緒に見守っていきます。今後ともよろしくお願いいたします。